

《京都》御所と離宮の葉しおり



其の四

— 京都御所 —

さこん
左近の桜



桜の名所や名木は日本各地にあります。京都御所紫宸殿南庭にも「左近の桜」という有名な桜があります。

この桜の起源については、平安遷都のときに植えられた梅が承和年間(834-848)に枯れたため仁明天皇(在位833-850)が桜に改め植えられたものと伝えられていますが、朝廷の編纂した日本三代実録の貞観16年(874)8月24日の条に、京の内外に大きな被害をもたらした大風雨が「紫宸殿前桜」他の名ある木を吹き倒したことを記載しており、その頃には確かに植えられていたことがうかがえます。

現在の左近の桜は、安政内裏(1855年竣工)からは3代目で、平成10年に移植したものです。移植時は樹齢約40年でしたので、今は50年を過ぎたこととなります。

左近の桜は、毎年4月春の一般公開前後に花を咲かせます。品種はヤマザクラで、葉芽と花が同時に開きます。


下の写真は、先代・先々代の左近の桜です。右下の先代の写真は、移植後1年目(当時推定樹齢15年)に撮影されたものです。





先々代左近の桜 大正12年4月5日撮影



先代左近の桜 昭和5年4月8日撮影

 マークは、御所・離宮の外側から、いつでもご覧になれます。

 マークは、参観でご覧になれます。申込み方法は、[参観要領 - 京都御所 \(kunaicho.go.jp\)](http://kunaicho.go.jp)をご覧ください。

 マークは、春と秋には申込みが必要のない一般公開の際にご覧になれます。下記にて日程等をご確認ください。 [特別公開など - 宮内庁 \(kunaicho.go.jp\)](http://kunaicho.go.jp)

 マークは、通常公開していない場所にあります。